

学校自己評価報告書  
令和7年度（2025年度）

令和8年（2026年）6月

学校法人電波学園

あいち造形デザイン専門学校 専門課程

学校評価委員会

委員長	小川	義則	(校長)
副委員長	吉田	信治	(専門課程部長)
委員	鳥居	靖洋	(専門課程主任)
	杉山	みゆき	(渉外主任)
	安田	英樹	(事務長)
	日笠	保	(主査)
	海老	修臣	(主査)
	加藤	成樹	(校務担当)
	久保	智史	(教務主任)

## 目次

I	学校の現況 .....	1
II	評価の基本方針 .....	2
III	教育目標 .....	2
IV	評価項目の達成及び取組状況 .....	4
	(1) 教育理念・目標 .....	4
	(2) 学校運営 .....	6
	(3) 教育活動 .....	8
	(4) 学修成果 .....	11
	(5) 学生支援 .....	13
	(6) 教育環境 .....	15
	(7) 学生の受入れ募集 .....	16
	(8) 財務 .....	18
	(9) 法令等の遵守 .....	20
	(10) 社会貢献・地域貢献 .....	21
	(11) 国際交流 .....	22
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 .....	23

## あいち造形デザイン専門学校 専門課程

### I 学校の現況

- (1) 学校名 あいち造形デザイン専門学校
- (2) 所在地 名古屋市千種区今池 4-10-7
- (3) 沿革
- 昭和57年4月 名古屋デザイン専門学校を開校
- 平成16年4月 名古屋デザイン専門学校を瑞穂区堀田から千種区今池に校舎新築移転
- 平成17年4月 名古屋デザイン専門学校からあいち造形デザイン専門学校に校名を変更
- (4) 学科の構成 文化教養専門課程
- グラフィックデザイン学科
- 造形デザイン学科
- 企画デザイン学科
- コミックイラスト学科
- マンガ・アニメ学科
- 研究科
- (5) 学生数および教職員数
- 学生総数：335名
- 教諭数：専任13名 講師：28名 事務職員：4名
- (6) 施設の概要
- 1号館
- 地上8階 地下1階
- 多目的ホール 普通教室 アトリエ
- パソコン室 (Macintosh室)
- 学生ホール
- 2号館
- 地上4階 デジタルプレゼンルーム
- 普通教室 金工室 工作工芸室
- パソコン室 (Windows室、Macintosh室)
- 学生ホール

## Ⅱ 評価の基本方針

日々の学校運営において、次に挙げる「教育目標」の各項目が組織的に運営され、教育活動に生かされているかを具体的なデータに基づき客観的に省みて自己評価を行う。また、問題点等があれば改善案を適宜検討するなどして、今後の教育活動や学校運営に生かす。

## Ⅲ 教育目標

### 【学園建学の精神】

「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」

### 【教育目標】

学園の建学の精神を根幹に、独自の実学教育メソッド(カリキュラムポリシー)による、「即戦力となるデザイン関係分野の専門技術・知識をもち、周囲から求められ信頼される人間性を兼ね備えた人材の育成・輩出」を教育の目標としている。

### 【三つのポリシー】

#### 一、ディプロマポリシー（卒業認定の方針）

デザイン分野の最終教育機関としての専門学校であり、実学を踏まえた教育目標に則り、以下の学修成果（専門技術能力と社会的人間性）を身に付けた者に対して卒業を認定している。

1. 発注者の要望や市場のニーズを理解し、その目的に沿った考え方（コンセプト）で立案ができ、計画的に制作を進められる即戦力の専門技術能力と、人間性を身につけている。
2. 商業美術の業界で就業するにあたり、企業組織内の業務から対外的交渉まで、良好な人間関係を構築することができるコミュニケーション能力を身につけている。
3. 商業美術の業界の目覚ましいデジタル化に対応するため、最新のクリエイティブ関連ソフトの基本操作能力を身につけている。
4. 学校が定める卒業に必要な認定基準を全て満たしている。

#### 二、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

卒業認定を実現するために、一年次は基礎的な科目とし、二年次前期は後期の「卒業制作」を見据えた実践的な作品制作の科目が中心となっている。

また、以下の独自カリキュラムを設定し、即戦力となる専門技術能力と人間性を修得できるようにしている。

1. 入学後一ヶ月間は、全学科を対象にBASIC STUDY（ベーシックスタディ）期間を設け、美術分野の基礎技術能力である「デッサン力」「色彩力」「マンガ・ア

## あいち造形デザイン専門学校 専門課程

ニメ基礎力(マンガ・アニメ学科のみ)」を修得する。そして、通常の各学科専門のカリキュラム学習へとスムーズに移行できるようにしている。

2. 全国的に顕著な活躍をしている特別講師「スーパーアドバイザー」による「特別講義」を設定している。特別講義は、グラフィックデザイナー・イラストレーター・絵本作家・マンガ家・アニメーション美術監督など。
3. 実践的なスキルが身につけられる「産学連携授業」や「コンペティション授業」のための科目を全学科に設定し、実学教育としている。「産学連携授業」では、学生によるクライアントへの作品のプレゼンテーションを行うこともある。
4. 学科に関係なく、商業美術分野のデジタル化において必要な必須ソフトの基礎的操作技術を修得するために、「コンピュータ演習Ⅰ～Ⅲ」を設定し、修得効果を高めている。
5. 就職活動方法やビジネスマナーの修得のために「キャリアガイダンスⅠ～Ⅲ」を設定し、就職専門の教員と各学科の担任とで指導をしている。

### 三、アドミッションポリシー（入学者受入の方針）

本校の「教育理念」と「ディプロマポリシー」を理解し、商業美術の業界で活躍することに意欲のある、次のような人を求めている。

1. 自身のクリエイティブな資質と人間性を成長させ、実社会で活躍したいと考えている人。
2. 本校のカリキュラムやキャンパスライフを通して、成長することを願っている人。
3. ものづくりや創作することが好きで、デザイナーやイラストレーター、マンガ家になりたいと希望している人。

#### IV 評価項目の達成及び取組状況

##### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
○学校における職業教育の特色は定められているか	④	3	2	1
○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
○学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が学生・父母等・関係業界等に周知されているか	4	③	2	1
○各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

##### ① 課題

- ・ 社会経済環境の変化を踏まえたニーズの再評価  
コロナ禍に端を発する社会危機により、オンライン化・AI活用をはじめとする価値観の変容が進み、社会経済のニーズも大きく変化し続けてきた。今後の施策検討にあたり、コロナ後の社会経済ニーズを再評価し、的確に把握することが求められる。
- ・ 教育理念の周知に向けた取り組みの強化  
教育理念は学生、父母等、関係業界に周知しているが、認知度については十分に浸透しているとは言い切れず、今後も周知、理解を得る必要がある。

##### ② 今後の改善方策

- ・ 社会経済ニーズに対応した将来構想の再構築と環境整備  
コロナ禍に伴う社会経済ニーズの変容は、従来の将来構想に見直しを迫る要因となっている。こうした状況を踏まえ、ICTをはじめとする先端技術の活用を前提とした学校の将来構想を再構築し、その実現に向けた環境整備を着実に推進する。  
さらに、生成AIの教育活用に関する国の指針策定が進む中で、画像生成AIがデザイン・クリエイティブ分野に与える影響については、今後の教育内容や人材育成にも関わる重要な要素であるため、動向を慎重に見極めていく必要がある。
- ・ 学校の特色と将来ビジョンの発信強化  
ホームページや教育懇談会、校友会等を通じて、理念・目的・人材育成像・特色・将来構想等の啓発を図る。また、教育懇談会では学校アンケートを実施し、認知度、内容等を確認、検討して、今後の改善に反映させる。
- ・ 関係業界への活動内容・計画の周知の促進

関係業界については、企業訪問や求人依頼時、産学連携などその時その時に応じて、具体的な活動内容、活動計画などを周知していく。

③ 特記事項

- ・ 教育目標に基づくカリキュラム編成と教育内容への取り組み  
各学科には「教育目標」「カリキュラム」及び「各科目の講義概要」があり、これらは各学科担当責任者と教務が連携して課題内容、授業方法の見直しを行い、各業界に適した構成・内容になるよう計画している。専門分野の科目のみに偏ることなく、一般教養やビジネスマナー等の就職に対応した科目も組み込んでいる。また、業界の第一線で活躍するプロをスーパーアドバイザー（特別講師）として招き、授業の中でより実践的な学習ができるようにしている。
- ・ 建学の精神に基づく教育理念の体系化と周知の推進  
本学園「建学の精神」を具現化し、社会へ貢献できる人材を育成することを「教育目標」および「三つのポリシー（ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）」に、体系的に編成・策定している。今後も適切な体制を整え、情報をホームページ・刊行物へ公表していくとともに、教職員・学生・入学予定者に対し浸透させていく。

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
○運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
○人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
○教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
○情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

- ・業務効率化の進展と次期システム移行への備え

教職員のスケジュール管理やグループウェアの活用により運営の効率化は図られているが、昨年度進めてきた DX 化の検討結果を、2026 年度からの実運用へ円滑に移行させていくと共に、業務のデジタル化が進む中で、個人情報保護およびサイバーセキュリティ対策を、現行の運用レベル以上に継続して強化する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・新機軸の DX 推進とデータ管理規定の明確化

昨年度までの検討を経て、2026 年度より着手する、ワークスローシステムの運用など、新たな DX 施策を確実に推進していく。これに伴い、保管するデータの種類や管理権限、使用範囲の開示基準を再整備し、情報システムのセキュリティレベルを維持しながら、業務のさらなる効率化を計る。

③ 特記事項

- ・組織的な意思決定と周知プロセスの継続

組織図および職務分掌に基づき、業務内容と責任範囲を明確に運用している。各事案の立案や報告は主管部署において文書化され、校長・理事長の承認を得る体制が確立されている。大幅な規則変更や事業計画の修正については、事前

に校長・理事長へ具申し、「理事会」の承認を得た上で教職員へ周知し、全校的な共通認識としている。

- ・ 情報システムの独立性維持と将来的な連携計画

情報システムは、セキュリティの要請から「教務管理」「学校経理」「給与会計」の3システムを独立して運用している。現状、教務管理システムの汎用性を活かしたデータ加工等により、業務の効率化を達成している。今後は、2026年度より始動する新たな取り組みと連動させながら、教務・就職・広報等の各管理業務がより有機的に連携できるシステム構築に向け、段階的な改善を計画している。

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
○関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
○関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
○授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
○職業に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
○成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
○資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
○職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

- ・ 色彩検定対策の充実と指導体制の整備  
デザイン系の資格取得は、現状では色彩検定のみである。カリキュラムの中に色彩学の授業が採り入れられ、3級の検定対策のテキストを使用しているが、授業内容や検定受験との連動は、科目担当者に委ねられている面が強い。そのため、体系的な指導については改善の余地がある。
- ・ 教員の専門性向上に向けた研修・支援体制の充実  
専門分野の指導力向上のため、教員は関連分野における高い知識・技能を修得しなければならないが、修得する具体的な方法等は、教員間での技術、知識交換や各教員の個人的な取り組みに頼る面が大きい。
- ・ 教職員の能力開発を支える研修体制の確保  
学校法人が主催する研修を実施しているが、研修の各講座には定員があるため、講座によっては、希望する必要な研修を受講できていないことがある。

② 今後の改善方策

- ・ 色彩検定受験支援と合格率向上への取り組み  
色彩検定取得の指導については、教務と色彩学の科目担当者、検定試験の担当者が連携し、より効率的に検定受験準備ができるよう、指導内容を工夫している。その上で、合格率向上を目指し補習授業を行っている。今後も継続して体系的な指導構築を行っていく。
- ・ 教員の指導力および資質向上に向けた取り組み  
常勤教員に対しては、各学科責任者の指導のもと、科目内容、授業運営、指導方法等、専門教育に関する協議・打ち合わせ、および各教員間の情報共有を必要に応じて行い、指導力向上・教員の資質向上を推進する。  
非常勤講師については、年度初めに過去一年間の職務実績の提出を義務付けており、専門能力の判断をしている。学習指導については、教務責任者・学科責任者が非常勤講師との協議・打ち合わせを適宜行い、指導方法の改善等による指導力向上を目指す。
- ・ 専門教育の質向上に向けた研修の推進  
学園の研修だけでなく、授業内容の充実、学習指導・就職指導の向上を目指し、本校独自の専門教育に関する研修を計画していく。

③ 特記事項

- ・ スーパーアドバイザーによる授業と産学連携による実践的職業教育の充実  
実践的な職業教育においては、スーパーアドバイザー（特別講師）による特別授業、企業との協同による産学連携等のプログラムを積極的に採り入れ、より専門的・実践的な技術等を学ぶことができるカリキュラムを実施している。具体的には、特別授業では最先端の知識技術を、産学連携では企業の担当者による授業ガイダンス、本校の実技担当教員によるコンセプトワークから作品完成

## あいち造形デザイン専門学校 専門課程

までのきめ細かい制作指導、作品完成後の企業に対しての学生のプレゼンテーションなど、キャリア教育の向上を目指し、学生の職業意識やコミュニケーション能力を高めるような指導に力を入れている。

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
○資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
○退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
○卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 専門職内定者数の底上げと求人開拓の強化  
就職希望者に対する内定率は98.2%と極めて高い実績を収めた。一方で、内定者の職種内訳を見ると専門職への内定は全体の40%に留まり、一般職を希望する学生が増加している。一般職へのニーズも高いが、専門学校として「専門職の内定数および求人数」のさらなる拡大が喫緊の課題となっている。
- ・ 新時代に対応したスキル証明（資格検定）の再定義  
色彩検定の取得推奨に加え、デザイン業界でも需要が急増しているWEB・IT等のリテラシーに関する公的資格の導入が必要である。次年度（2026年度）からの学校教育法改定（単位制移行）を見据え、自律的な学修を促すための客観的な指標として、これらの資格をどう位置づけるか検討が求められている。
- ・ 退学率の抑制と学生フォロー体制の再構築  
2024年度の退学率5.4%に対し、2025年度は6.0%と上昇傾向に転じた。これは、多様な背景を持つ学生が増加する中で、個別の課題に十分な対応が及ばなかったことを示唆している。次年度以降、より自律的な学修が求められる「単位制」へ移行するにあたり、退学率5.0%未満への低減は学校運営上の重要事項であり、指導体制の抜本的な見直しが必要である。
- ・ 卒業生情報の体系的な収集と組織化  
卒業生の活躍状況の把握が、依然として担任個人の情報収集に依存している。次年度からの新たなDX施策によるデータ管理を見据え、校友会や企業と連携した、より組織的かつ体系的な情報収集ルートの構築が課題である。

② 今後の改善方策

- ・ 専門職への就業意識向上と新規求人開拓の推進  
専門職の内定者数を増やすため、以下の三点を柱に施策を展開する。

1. 専門職の新規開拓を目的とした企業訪問を強化し、本校学生に適した求人枠の確保に努める。
2. 第一線で活躍する非常勤講師陣との連携を深め、業界直結の求人紹介やネットワークの活用を図る。
3. 早期に専門職種の学内企業説明会を実施し、専門分野で働く魅力やキャリアプランを直接伝えることで、学生の専門職への就業意欲を早期に喚起する。

- ・ 資格検定の多角化と受検支援の充実  
色彩検定の補習体制を継続・強化し、高い合格率を維持する。併せて、WEB・IT分野の新たな推奨資格についても2026年度からの導入に向けた具体的な計画を策定する。また、次年度より導入される新システムにおいて、資格取得状況を効率的に管理できる体制を整える。
- ・ 退学率5.0%未満達成に向けた伴走型支援の徹底  
退学率を5.0%未満に抑えることを最重要目標に掲げ、教職員が改めて「面倒見の良い学園」としての原点に立ち返る。学生一人ひとりの微細な変化を察知できるように、早期面談の回数を増やし、信頼される教育現場作りをベースとした中途退学の未然防止に総力を挙げて取り組む。
- ・ 校友会・企業ネットワークを活用した情報還元強化  
校友会、ACA、および卒業生の就職先企業との連携を深める。SNS等の通信ツールを活用した情報交換を活性化させ、卒業生のキャリアデータを在校生の指導に活用できる基盤を整備する。

### ③ 特記事項

- ・ 学生の希望を尊重した就職支援の充実  
学校全体としての就職内定率は近年では大変高い数値が出ている。その数字は維持していきながら、学生の「一般職希望」へのニーズも尊重し、プラスαで「専門職」増を目指したい。

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○進学・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
○課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
○保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
○卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
○高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1
○関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか	4	③	2	1

① 課題

- ・ 卒業生への組織的支援と校友会認知度の向上  
卒業生への支援体制として校友会を設置しているが、卒業生全体における認知度は依然として低い状態にある。在学中からの意識付けを含め、卒業後も学校とのつながりを維持するためのアプローチに課題が残る。
- ・ 社会人入学者に対するキャリア支援の最適化  
クリエイティブ分野では新卒や若手の業界経験者が優遇される傾向が根強く、社会人を経験した後に再進学した学生にとって、年齢的な要因が就職活動における障壁となる可能性がある。業界が求める「社会人経験＋クリエイティブスキル」の人物像を明確にし、個別最適化したキャリア支援を行う必要がある。
- ・ 業界と連携したリカレント教育（再教育）の体系化  
卒業後のキャリアアップや職種転換を支える業界連携型の再教育プログラムについて組織的な実施には至っていない。就職後のスキル更新に対するニーズや要望を踏まえ、関連業界と連携した体系的なプログラムの開発・検討が求めら

れている。

② 今後の改善方策

- ・ 「面倒見の良い学校」としての卒業後サポート窓口の構築とネットワーク連携

在学中のみならず、卒業後も生涯にわたりキャリアを支える「面倒見の良い学校」としての体制を強化するため、卒業後の進路・就職サポート窓口を明確化する。今後はこの窓口を核として、校友会、ACA（あいちクリエイターズアソシエーション）、および卒業生ネットワークとの連携を深め、一体となった支援体制を構築していく。

また、校友会総会の実施やホームページ、メールマガジンを通じた定期的な情報発信、学校祭でのホームカミングデーの開催を継続するとともに、在校生に対しては校友会による表彰や各種支援等の取り組みを早期から周知し、組織への認知度と帰属意識を高めていく。

- ・ 外部有識者の意見を反映した社会人学生への出口支援

社会人入学者のニーズに即した教育・就職環境の整備に向け、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会の意見を積極的に取り入れる。業界が求める社会人経験者像の動向を的確に捉え、現状の採用市場に沿った柔軟かつ実践的な就職対策を検討・実施していく。

- ・ ニーズに即した個別対応の継続と再教育プログラムの検討

体系的な再教育プログラムの組織化に向けては、引き続き教育課程編成委員や企業等の意見を参考にしながら検討を進める。当面は、卒業生個々の要望やキャリアの相談に対して個別かつ迅速に対応する体制を維持し、段階的なプログラム化を目指す。

③ 特記事項

- ・ 求人閲覧ツール「HANDY 進路指導室」の導入と利便性の向上

これまで求人票は本校ホームページ上の就職支援ページにて公開していたが、学生の利便性と検索性をさらに高めるため、新たな進路支援ツールとして「HANDY 進路指導室」を採用・導入した。スマートデバイスからの閲覧環境や機能性が大幅に向上したことで学生の活用頻度も高く、スムーズな就職活動を支えるインフラとして2026年現在も大変良好に機能している。

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できる よう整備されているか	4	③	2	1
○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修 等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	②	1
○防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 教育のデジタル化への対応  
特定の教室に電子黒板も設置された。また、特定の普通教室にタブレットと対応したプロジェクターを設置。教室内でデジタル機器を用いた授業が可能となっているが、引き続き、ICT環境を整えていく必要がある。
- ・ 学外実習・国際交流機会の充実に向けた検討  
学外に実習施設は設置していない。インターンシップも就職を前提としたものが多い。海外研修については学園企画の海外研修やクラブ活動で海外の大学との国際交流などの実績があるが、今後も検討の必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 次世代教育環境の構築に向けた取り組み  
今後はさらにデジタル機器を活用した、教育環境が求められてくるため、現在、何が必要かを検討し、授業に有益な設備の計画を立案していく。また、多数を相手とした授業など、ネットワークを利用した設備についても検討していく。
- ・ グローバル教育の推進検討と情報収集  
海外研修、国際交流については本学園国際交流室を通じ、現状の情報を得た上で今後実施可能か検討していく。

③ 特記事項

- ・ ICT教育環境の整備と計画的な充実  
新たに2号館224、225教室にプロジェクターを設置。合同授業や合同説明会ができる教室として整備した。また、232教室に電子黒板を設置、401教室にもiPadと連動したプロジェクターを設置し、普通教室でのデジタル授業などが実施できる環境に整備した。今後も学習環境向上のために、コンピュータソフトウェアの更新や普通教室のICT対応も計画的に行っていく。
- ・ ICTを活用した新たな授業展開の検討  
ICTに対応した授業ができる機器等の導入、環境整備を計画し、変化に対応した新たな授業展開を検討していく。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	③	2	1
○学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1
○学生募集活動において、教育成果（資格取得・就職状況等）は正確に伝えられているか	④	3	2	1
○学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 高校等への情報発信の強化  
高校等の接続する機関への情報提供は、主に高校訪問によって行っているが、十分に情報が提供できたとは言えない。従来と違った、新たな取り組みや手法を検討していく必要がある。
- ・ 入学者確保に向けた募集戦略の再検討  
令和7年度入学者数は一部学科の減少が見られたため、情報提供・募集活動については再検討の必要性がある。

② 今後の改善方策

- ・ 広報手法の多様化と情報発信力の向上  
訪問に代わる資料やDMの送付などに加え、ホームページ、SNSなどによる情報発信方法をさらに強化、工夫していく。
- ・ 学生参加による魅力発信の強化  
オープンキャンパスは、応援学生の協力を得て実施している。これが参加者に良い影響を与えている。今後とも学生の協力を得ながら、教職員一同、参加者とのコミュニケーションを図り、本校の魅力を伝え、入学生増に繋げていく。
- ・ 学生の実践的な学びを活かした学校PRの推進  
学校パンフレットの表紙デザインやページ編集に学生が携わるようにしている。今後も、その実践的な教育の取組み内容も学校PRのひとつとしていく。

③ 特記事項

- ・ ホームページ・SNSを活用した情報発信の推進  
情報提供は、学校パンフレット、ホームページ、LINEやX等のツールでの広報及びオープンキャンパス、直接高校の進路指導に伺う高校訪問、進学ガイダンスなどが主なものである。特にオープンキャンパスの参加者の中には本校DM・ホームページを見て興味が沸いたとの声が多かったため、記事や写真の更新に力を入れていく。

## あいち造形デザイン専門学校 専門課程

- 正確で分かりやすい情報提供の推進  
学生募集用ツールについては、制作段階から教務責任者・各学科責任者が深く関わり、正確で適正な内容となるようにしている。最終段階では全教職員による内容確認を行っている。オープンキャンパスにおいても、学校説明は本校オリジナルアニメーションを用いてより分かりやすく伝えるよう工夫を凝らしている。体験実習は、通常授業の雰囲気が伝えられる内容を設定しており、オープンキャンパス後の個別相談も行っている。
- 教育環境を踏まえた学納金の適正化  
学納金は、毎年度事務担当者が収支状況を把握し、愛知県内の同種他校と比較検討、学納金案を本校事務局が立案している。案は学内で審議後、学園の評議員会並びに理事会での審議を経て決定している。魅力ある学校運営に努めて、費目と金額の適正化、今後の入学生数、教育環境の充実を含め、適切な金額となるよう設定している。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
○財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
○財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

- 安定した財務基盤の維持と経営改善  
財務基盤は、借入金等の負債はなく、資金流動性に富んでおり、賢固な基盤を有していると言える。昨年比で入学生数は微減、在籍数は増加しているものの、教育活動収支差額が必ずしも良いとは言えない状況であるため、固定費の削減と新設学科の募集広報を強化し安定した入学生確保が重要となる。
- 事業計画に基づく適切な予算編成  
予算・収支計画は、学内において担当部署が立案する事業計画に基づいた特別予算、一般予算の算出及び学生生徒収容計画書により収入予定案を作成しており、一般予算については配布予算内での実施が可能となっているが、未計上の目的別予算もあり、より計画を詳細にしていく必要がある。

② 今後の改善方策

- 財務基盤の安定化に向けた取り組み  
財務基盤の安定化に向けては、教育の質向上と学生支援の強化、中長期的な視点に立った効果的な広報戦略、そして新設学科の募集広報の強化が不可欠となる。また、退学率を抑制するための対策検討を継続するとともに、事業内容の見直しや経費節減といった施策を推進する。以上の取り組みを展開することで、確実な収入財源の確保につながるものと考えている。
- 実効性のある予算・収支計画の推進  
予算収支計画を実効性のあるものにするにあたり、定期的に予算委員会を実施し、教務（教員）も参加している。目的別予算を導入し、課程別の予算・収支計画を作成することにより、教職員全体で経費節減も含め共通認識として取り組んでいく。

③ 特記事項

- 会計処理の適正性確保  
会計監査は、毎年1回公認会計士により、会計帳簿、帳票伝票等並びに現金、貯蔵品等の証憑突合監査が行われている。また、内部監査規程による内部監査（年

## あいち造形デザイン専門学校 専門課程

3回)を行っており、適正に実施されている。

- ・ 財務情報の適切な公開と透明性の確保

私立学校法に従って、当該年度の財務諸表及び事業報告書を、毎年6月末日までに作成し、理事会の決議を経て、法人事務局に常備し閲覧できるようにしている。財務情報(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書)は学園のホームページにて毎年更新公開している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
○自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

- ・ 自己評価・学校関係者評価結果の公開  
学校評価に関する情報として学校自己評価報告書・学園財務状況・学校関係者評価報告書をホームページ上で公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
○学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
○地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

- ・ 地域ニーズに即応する受託型公開講座・教育訓練のあり方の検討  
学校単体が主導する固定的な公開講座等の新設は現状計画していない。しかし、特記事項にある通り、官公庁や地域社会からの直接的な制作・イベント依頼は年々増加傾向にある。今後は、これら地域からの具体的なニーズや要請に対して迅速かつ柔軟に応える体制（受託型の公開・教育活動）の整備を、本校における地域貢献の基本方針として定着させていくことが課題である。

② 今後の改善方策

- ・ 外部団体（ACA）との連携強化と地域社会への能動的協力  
本校独自の定期公開講座の計画は現時点ではないが、本校卒業生が主体となって活動している外部団体「ACA（あいちクリエイターズアソシエーション）」が主催するクリエイターセミナー等への全面協力を継続している。今後もACAの活動を強力にバックアップし、地域社会へ向けたクリエイティブ教育の普及・提案を積極的に推進していく。また、地域・企業からの単発の講座・研修依頼に対しても、状況に応じて柔軟に対応できるよう検討を進める。

③ 特記事項

- ・ 官公庁（消防署・警察署等）との強固な地域連携実績  
千種消防署の啓発チラシ制作や千種警察署と協力した防犯動画の制作を実施。各署より感謝状を拝受するなど、本校のデザイン力が地域の安全活動に多大に貢献している。
- ・ 産学連携の拡大と学生の社会貢献意識の醸成  
企業や公共団体との「産学連携」を積極的に推進しており、公共ポスターや地域振興の装飾デザインなど、昨年度以上に多くの案件を手掛け、学生の社会貢献への意識を高めている。
- ・ 地域イベントへの参画とデザイン・美術の普及活動  
地域の似顔絵イベントへの参加機会が定着しており、住民交流を通じた貢献を果たしている。また、全国の高校生を対象としたデザインコンテストを主催し、美術の普及・発展に寄与している。

(11) 国際交流

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	③	2	1
○留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
○留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	③	2	1
○学修評価が国内外で評価される取り組みを行っているか	4	③	2	1

① 課題

- ・ 留学生受入れ・派遣体制の現状  
留学生の受入れ・派遣については、本校独自で行っておらず、法人事務局国際交流室や、他の姉妹校と足並みをそろえる方向で行っているため、独自性を打ち出していない。
- ・ 留学生支援体制の整備  
留学生の学修・生活指導は担任が中心となり、留学生担当および教務と協力して行う体制は作られている。
- ・ 国内外への情報発信力の現状  
評価される取り組みとして、国内では学生の成果や活動はホームページや SNS、定期発行物を通じて知らせている。国外においては、現在、外国語訳のホームページを作成していないため、広く知られ、評価されているとは言えない。

② 今後の改善方策

- ・ 留学生受入れ・派遣における連携強化  
留学生の受入れ・派遣については、今後も法人事務局国際交流室と連携を取り行っていく。
- ・ 国際的な情報発信体制の検討  
外国語訳のホームページについては法人事務局国際交流室等と連携しながら検討していく。
- ・ 留学生数の動向を踏まえた組織体制の検討  
留学生の入学数、在籍者数の動向と計画を検討し、必要があれば校内で明確な組織化を計画していく。

③ 特記事項

特になし

## V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校の学校目標は、前年度の振り返りを踏まえて設定され、年度当初に学園が実施する理事長・法人事務局・各校所属長・管理監督者が出席する学園合同会議において発表されている。全教職員が協力し合い、これらの目標の実現に向けて学校運営を進めている。

各評価項目については、概ね適切に取り組めていたと評価できる。しかし、今後も改善すべき点を明確にし、具体的な取り組みを継続的に実践することで、教育の質的向上と教育環境の整備をさらに推進していく必要がある。

学生や父母等、デザイン業界および関連機関に対しては、本校の教育目標や具体的な取り組み、その成果がより理解されるよう、情報発信の方法についても検討を進めることが求められる。

また、社会の変化に即したカリキュラムや教育環境の見直しについては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会の意見を取り入れ、教育内容の質的向上を図る。

日々の学校運営においては、学生が自主的に活動・参加できる環境を整備し、主体性と学校愛を育むことを重視する。卒業後は校友会やACA（あいちクリエイターズアソシエーション）の活動へとつなげ、卒業生ネットワークを強化し、卒業生支援の場として発展させていきたい。

本学園の「建学の精神」とスローガンである「ありがとう、と言われること。」の実現に向け、以下の項目に積極的に取り組む。

- ・学校組織によるアイデンティティの確立

学校組織と職務分掌表（教務・校務・進路指導）の連動により「役割」「職責」を明確化し、遂行すべき目標や計画に対して教職員の意識向上、行動の活性化を図る。

- ・管理監督者による授業視察と講評の実施

改めて客観的に授業運営を視察し、その所感を担当者にフィードバックして教育内容と技術の向上に取り組む。

- ・国際交流の取り組み

コロナ禍の中では、積極的な国際交流を行うことができなかったが、徐々にではあるが日本語学校で学ぶ留学生が増加しつつある。今後、国際的に通用するデザイン学校を具現化するにあたり、留学生の受け入れ体制についても、柔軟に対応する必要性がある。

- ・ACA（あいちクリエイターズアソシエーション）の更なる支援

作品発表や学習・交流の場の確保は卒業生支援の観点からも有効であり、また各教員のスキルアップにも役立つため、積極的に入会・参加を促す。

- ・ドロップアウト減少のための取り組み

進級時の退学率が4%を超えないことを目標に、チュートリアル会議を行い教員間及び心理士との学生情報の共有と、的確な対応が速やかに出来るよう、全教員が協力し合い日々の学生指導に努める。

以上